

道

～道はいい 道は大好きだ 道を歩いていこう～

アニメ「ほのほの」のセリフです。

道徳科の授業を通して育みたいものとは

6月号でお伝えしたとおり、道徳科の授業では「思いやり、感謝」「よりよい学校生活、集団生活の充実」など内容項目と呼ばれる22の価値観について考える機会をもっていきます。また、そんな価値観について自分なりの考えを深めるにあたり、広い視野から多面的・多角的に考えることができるよう、道徳の授業では自分と違う他者（クラスメイト）と互いの意見を交し合う「議論（対話）」が大切にされます。ここにおける「議論（対話）」には、意見の勝ち負けや優劣はありません。どの考えも大切に、どんな感じ方も尊重されるべきものとなります。そういったことを大切にするために東中学校では道徳科の授業において次の3つの流れを汲むことを基本としています。

①テーマとなっている内容項目(道徳的価値)について理解する。

(例)「〇〇(価値)とは、～なことなんだなあ。」

「今日勉強した〇〇(価値)についての考え方、自分が思っていたものとは違っていたなあ。」

②その価値について、他者と意見を交流し、様々な考え方・感じ方に触れる。

③最後に改めて、その価値について自分自身の考え方・感じ方と向き合ってみる。

そんな過程の中で時間をかけてじっくりと育てていきたいものが「道徳性」と呼ばれるものです。この道徳性は、道徳的な「判断力」「心情」「実践意欲と態度」の3つに分けることができ、それぞれ以下のような内容となっています。

道徳的判断力…それぞれの場面において善悪を判断する能力

(例)「〇〇することは、～な理由で良いんだ(良くないんだ)。」

「私のしていた～は、価値のある行為なんだ。」

道徳的心情…道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

(例)「〇〇な心(考え方、行為)って、すてきななあ。」

「〇〇な心しかないのって(行為しかできないのって)、悲しいだろうなあ。」

「どうしたら、〇〇な心がもてるのかなあ。」

道徳的実践意欲と態度…自分の中で道徳的に価値があるとされた行動を取ろうとする傾向性

(例)「(いいと思うことを)何かやりたいなあ。」「(いいと思うことを)やってみよう。」

「～できるようになりたいなあ。」「Aさんみたいな行為ができるようになりたいなあ。」

この3つを「思いやり、感謝」という内容項目に当てはめて考えてみると…

「判断力」→相手の立場に立って考えることは、お互いが気持ちよく関わりあうために大切なんだな。

「心情」→困っている人にそっと手を差し伸べられるやさしい人って、ステキだなあ。

「実践意欲と態度」→自分も〇〇さんのように、誰かを支えられる人になりたいなあ。

たとえばこういった心の在りようが考えられるでしょうか。



これらの「判断力」「心情」「実践意欲と態度」は、1回の授業で十分に身に付くものでももちろんなく、1回の授業で3つすべてを考えたり感じたり身に付けたりしなければならぬものでもありません。多くの道徳授業を繰り返していく中で、そして同時に様々な場面で人との関わりを積み重ねていく中で少しずつ育まれていくことに意味があります。大人になったその時に他者との平和的な共存の中で自分らしい生き方を歩んでいける人間になっている、そのための様々なきっかけの場に、道徳科の授業がなっていって嬉しそうです。そしてそのために、生徒が友との議論（対話）の中で自分事として主体的に考えることのできる授業を目指していきたいと考えています。